

日田市内河川におけるアユ生育状況等調査(R1年9月11~12日実施分)結果表

	調査結果	ハミ跡等の写真				河川毎の特徴傾向等	
大山川	① 大宮沈下橋下流	① 下流部右岸寄りクジラ岩の下、淵部分で20%強。 ② 下流部中央瀬の白波部分、20%強。 ③ 中流部右岸の浅瀬で10%以下。 ④ 上流部のよどみはハミアトほぼなし。 【水温22.8℃】 【採捕個体2尾: 24.5cm、21.0cm】	② 下流部中央瀬	② 下流部中央瀬	③ 中央部右岸浅瀬	採捕個体	<p>●第2回調査時と同様、全体的にハミアトの状態は良い。下流域(大宮沈下橋)では、ややハミアトの量は減少した(漁獲圧によるものと推測)が、流れのある部分ではしっかりと大型個体のものではあろうハミアトが確認できた。また、中流域(榎瀬橋、BG裏)の調査地点でのハミアトの状態は非常に良好であり、しっかりと縄張りをもって生息している様子が確認できる。まだ川を下る時期ではなく、遊漁も十分に楽しめる状況と考えられる。</p> <p>●ただし、大山川ダム堰より上流地点(とくに竹の首)ではハミアトが前回より減少しており、小さなハミアトが目立ち、大型個体は上流から順に川を下り始めているか、もしくは単純に網で漁獲されたか定かではないが、上流域では個体数が減少していると考えられる。昨年の第3回調査でも同様の上流2地点で小さなハミアトが目立ち、調査時期が10月であったことから、ダムから落ちた陸封鮎の可能性を考察したが、9月時点で小さなハミアトが確認できたため、陸封鮎とは考えにくく、単純に育ち切れなかった小型の放流鮎が、大型個体が減少したことや餌を食べられるようになり、小さなハミアトとして残ったということも考えられる。</p>
	② 榎瀬橋下流	① 岩盤より下流部瀬で30%強。 ② 岩盤部分もツルツルした石にハミアトがあり30%。 ③ 堰より上流部、堰のすぐ上にハミアトが集中しており(とくに右岸の岸から1.5mまでの間)、40%強。 ・全体的に個体サイズは大きく、20cm後半の生息多し。 【水温23.7℃】 【採捕個体2尾: 26.0cm、21.5cm】	① 下流部左岸寄り瀬	② 中流部右岸寄り瀬	③ 上流部右岸堰上	採捕個体	
	③ BG表	① 下流部~上流部右岸の流心部分は50%。 ・その他の部分も全体的にハミアトが多い。 ・縄張りをしっかりと持っているような食み方をしており、未だ川を下る様子ではない。 【水温24.0℃】 【採捕個体4尾、26.5cm(死亡)、26.0cm×2、23.0cm】	① 下流部右岸流心	① 上流部右岸流心	下流部左岸浅瀬	採捕個体	
	④ 竹の首沈橋付近	① 下流、堰の下は右岸寄り30%。 ② 橋の下から堰の手前、よどみ部分では10%程度。 ③ 橋より上流部は流心部分で10%程度。 ・下流ポイントと比較するとハミアトの量が少なく、かつハミアトのサイズが非常に小さい。比較的大きいハミアトは古いものが目立ったため、小型サイズを残して大型サイズは下流に下ったか、若しくは採捕されたか。 【水温23.8℃】 【採捕個体なし】	② 下流部堰手前(非常に小さいハミアト)	② 橋より上流部流心(非常に小さいハミアト)	③ 上流部流心(サイズは大きい古い)	③ 上流部流心(比較的大きく、新しい)	
	⑤ 松原ダム直下	① 橋の下流部、背の出口付近で10%。 ② 橋直下の深い部分で30%強。 ③ 上流部の流心で10%。 ・原因不明だが橋直下にハミアトが集中。 【水温22.1℃】 【採捕個体なし】	③ 上流部流心	③ 上流部流心	③ 上流部流心	③ 上流部流心(古いハミアト)	
赤石川	⑥ 赤石川下流	① 下流部左岸寄りの流心部分で30%。 ② 上流部瀬の部分で20%。 ・まだ下る時期ではなく、縄張りをもって生息している様子。 【水温22.3℃】 【採捕個体4尾: 19.0cm×3、18.0cm(※全て人工種苗)】 ・採捕個体はすべて人工種苗であったため、陸封鮎は既に下っている可能性あり。	① 下流部左岸流心	② 上流部中央瀬	② 上流部中央瀬	採捕個体(全て人工種苗)	<p>●前回調査時よりもハミアトの量が減少した。下流域では縄張り鮎のものらしきハミアトが確認できたが、採捕個体は前回が全て陸封鮎が捕れたにも関わらず、今回はすべて人工種苗であったため、現在縄張りを形成しているのは人工種苗であると考えられ、陸封鮎は人工よりも早期に川を下ることが考えられる。</p> <p>●既に8月中旬頃には榎瀬橋付近で陸封鮎の漁獲報告が2件あったことから、早期降下の裏付けとなる。</p>
	⑦ 大山ダム直下	① 中流部瀬の白泡部分で20%。 ② 上流部はほとんど確認できず。(左岸寄り5%程度) 【水温21.6℃】 【採捕個体なし】	① 中流部瀬白泡	① 中流部瀬白泡	① 中流部瀬白泡	② 上流部左岸	
玖珠川	⑧ 天ヶ瀬温泉街	① 上流から下流にかけて右岸護岸沿いに20%。 ② 中流から下流部の瀬、岩の周りに20%。 ・全体的に生息状況は良好である。 【水温21.9℃】 【採捕個体1尾、25.6cm】	① 下流部右護岸沿い	① 下流部右護岸沿い	② 下流部瀬	採捕個体	<p>●玖珠川は第1回調査以来の調査となったが、上流域(温泉街)でもしっかりとハミアトが確認でき、おおむね良好な状況であると考えられる。</p> <p>●大山川と同様、まだ川を下る様子ではない印象。</p>
	⑨ 東溪中裏	① 下流部よどみはほとんど確認できず。 ② 中流部右岸15%。 ③ 上流部左岸のやや流れが緩い部分で20% 【水温24.4℃】 【採捕個体4尾、19.5cm、22.5cm、23.0cm、23.5cm】	② 中流部右岸	③ 上流部左岸	③ 上流部左岸	採捕個体	
	⑩ 小瀬橋上流	① 下流部左岸15% ※まばらに食っており、縄張り鮎のものではない様子。 ② 下流部右岸浅瀬10%以下。 ③ 上流部右岸④上流部左岸の瀬の両方で20%。 ※③④はしっかりと食っており、縄張り鮎のものであろう。 【水温25.0℃】 【採捕個体なし】	① 下流部左岸	② 下流部右岸浅瀬	③ 上流部右岸瀬	③ 上流部右岸瀬	
花月川	⑪ 御幸橋下流調査	① 下流部左岸瀬の出口で5%。 ② 中流部は石の堆積がありハミアトなし。 ③ 上流部よどみでも確認できず。 【水温28.1】	① 下流部左岸瀬	① 下流部左岸瀬	① 下流部左岸瀬		●第1回調査時は、小ぶりながらも非常に多くのハミアトが確認できた地点であるが、一気に減少している。土砂の堆積により水深が浅く、水温も非常に高くなっているため早期に降下したか、死亡したか。
三隈川	⑫ 高瀬川合流点	<高瀬川>【水温25.7℃】 ① 上流から下流部、左岸は流れが弱くハミアトなし。 ② 右岸は流れが強く、護岸で15%。 【採捕個体4尾: 19.5、16.5、20.5×2うち1尾サビ】 <三隈川>【水温23.4℃】 ③ 下流部左岸合流点付近からやや中流にかけハミアトが集中しており20%。 ④ 上流部は全体的に少なく10%未満。	② 高瀬川中流部右岸	③ 三隈川下流部左岸	④ 三隈川上流部左岸	採捕個体(高瀬川)	<p>●例年並みといった印象。これから10月上旬頃にかけて、降下個体が増加すればさらにハミアトも増加すると考えられる。</p>
	⑬ TDK裏付近	① 下流部左岸、②上流部~中流部瀬の近辺で10%程度だがハミアトは大きく、しっかりと食んでいる。	① 下流部左岸瀬	① 下流部左岸瀬	② 上流部左岸寄り瀬		

注：本結果は、調査実施日時点におけるアユの生息状況を石の食み跡、個体の目視及び漁獲調査により推定したものであり、アユの漁獲量の増加を保証するものではありません。